
口頭発表

[D] 生物的防除・寄生・捕食

2024年3月29日(金) 13:30 ~ 17:00 D会場 (白檜2)

16:15 ~ 16:30

[D-21] ナラ枯れ跡地に発生したカエントケに寄生するシズカトモナガキノコバエ

○末吉 昌宏¹、福井 修二² (1. 森林総合研究所、2. 島根県地域振興部)

子囊菌類のカエントケ *Trichoderma cornudamae* がナラ枯れ跡地に発生することがよく知られている。カエントケは猛毒きのこととしても知られており、国内や韓国でこの子実体を摂食して死亡する例が知られている。2022年と2023年に島根県内のナラ枯れ枯損木の切り株で採取されたカエントケから双翅目キノコバエ科の1種が羽化した。これを *Rymosia placida* Winnertz, 1863 と同定し、和名としてシズカトモナガキノコバエ（以下シズカ）を提唱する。本種の産地として本州は、また、寄主きのこととしてカエントケはそれぞれ初めての記録となる。カエントケ子実体を直接食害する動物はこれまで報告されていない。国内各地でシズカがカエントケを寄主きのこととして利用しており、さらにこの寄主・寄生者関係が東アジアの森林で成立したことが考えられる。